

10th Anniversary of Kyushu Geibun-kan

Photographs of Taro Okamoto: Focusing on Japan

会場は全室
撮影可能!

出品作品 (作品は全て川崎市岡本太郎美術館蔵)



◀縄文土器> 1956年3月5日撮影 (東京国立博物館)



◀男鹿半島・なまはげ> 1957年2月12日撮影 (秋田)



◀修理中の眼鏡橋> 1957年3月7日撮影 (長崎)

関連展示「筑後七国の祭り」

会場：九州芸文館 教室工房1 入場無料

本展の関連展示として、筑後地域に伝承されてきた祭りについて写真や映像のほか、衣装等の資料を紹介します。

●幸若舞(みやま市)

織田信長などに好まれた幸若舞は、室町時代に始まったと伝えられます。素袍を着た舞方が、鼓方のかけ声と鼓に合わせて吟じ、時に舞方中央の太夫は袴の前を握り、足拍子を踏みながら舞台の上を前後左右に移動します。



●八女福島の燈籠人形(八女市)

八女市の福島八幡宮の放生会で奉納される「からくり人形芝居」です。釘やすがいを一本も使わずに組み立てられた、三層構造の屋台の中で、囃子や唄に合わせて人形を操ります。



この他、久富の盆綱曳き・熊野神社鬼の修正会(筑後市)、田代の風流(八女市)、裸ん行(大川市)、どろつくだん(柳川市)、大木の川祭り(大木町)、清菜茶屋素盞鳴神社獅子舞(広川町)などを紹介します。

○もっと岡本太郎ワールドを楽しみたい!

岡本太郎の作品はこちらの美術館・記念館でも鑑賞することができます。

◆川崎市岡本太郎美術館

川崎市生まれの芸術家・岡本太郎の魅力あふれる美術館です。常設展示室では絵画をはじめ、彫刻や家具も展示しており、貴重な作品の数々により太郎ワールドを体感できます。



■開館時間：9:30～17:00(入館は16:30まで)

■休館日：月曜日(月曜が祝日の場合は除く)

祝日の翌日(祝日の翌日が土日にあたる場合を除く) 年末年始、他に臨時休館日あり

開催中の展覧会

展覧会名：企画展「TARO賞の作家Ⅲ」

出品作家：大西康明、内海聖史、若木くるみ

展示期間：2023年10月14日(土)～2024年1月14日(日)

※休館日：月曜日(1月8日を除く)、12月29日(金)～1月3日(水)、1月9日(火)

観覧料：一般1,000(800)円、高・大学生・65歳以上800(640)円、中学生以下は無料

※()内は20名以上の団体料金 ※併せて常設展もご覧いただけます。

○お問い合わせ：川崎市岡本太郎美術館

〒214-0032 川崎市多摩区枳形7-1-5 生田緑地内 電話番号：044-900-9898

◆岡本太郎記念館

岡本太郎が40年以上に渡り過ごしたアトリエ兼住居を公開した記念館です。旧館はアトリエ、サロンが当時のまま残されており、新館1階はミュージアムショップ、2階は企画展示スペースとなっており、さまざまな企画展が開催されます。



■開館時間：10:00～18:00(入館は17:30まで)

■休館日：火曜日(祝日の場合は開館)、年末年始及び保守点検日。

開催中の展覧会

展覧会名：開館25周年記念「令和の蔵出し」

展示期間：2023年7月13日(木)～11月26日(水) ※休館日除く

観覧料：一般650(550)円、小学生300(200)円 ※()内は15名以上の団体料金

○お問い合わせ：岡本太郎記念館

〒107-0062 東京都港区南青山6-1-19 電話番号：03-3406-0801

■交通案内

- JR九州新幹線「筑後船小屋」(博多から約25分)から徒歩1分/鹿児島本線「筑後船小屋」(博多から快速で約50分)から徒歩1分
- 西鉄バス 50番(久留米-船小屋)「筑後船小屋駅前」から徒歩1分
- 九州自動車道「八女IC」から約10分、「みやま柳川IC」から約15分
- 駐車場 103台(2時間まで無料/以降1時間毎100円)

■お問合せ

九州芸文館 (筑後広域公園芸術文化交流施設)

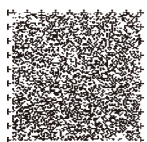
〒833-0015 福岡県筑後市大字津島1131 TEL: 0942-52-6435

URL: <https://www.kyushu-geibun.jp>



Uni-Voice

このマークは、目が不自由な人などが使う音声コードです。



10th Anniversary of Kyushu Geibun-kan

岡本太郎

九州芸文館開館10周年記念展

の写真

日本を見つめる眼

Photographs of Taro Okamoto: Focusing on Japan

2023.10/28[土] - 12/3[日]

○開場時間/10:00～17:00(入場は16:30まで) ○休館日/月曜日

観覧料：一般800円(600円)、高大生500円(300円)、小中生300円(100円) ※65歳以上の方は特別割引料金(600円)

※()内は20名以上の団体料金 ※身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方およびその介助者は無料

○主催：九州芸文館美術展実行委員会 ○共催：西日本新聞社 ○特別協力：川崎市岡本太郎美術館、公益財団法人岡本太郎記念現代芸術振興財団

撮影：酒井啓之

九州芸文館
KYUSHU GEIBUN-KAN

岡本太郎の写真

《太陽の塔》、《明日の神話》などの作品や、「芸術は爆発だ!」といった言葉が広く世間に周知され、20世紀を代表する芸術家であった岡本太郎(1911-1996)。溢れる才能は絵画作品に留まらず、彫刻、インダストリアルデザインや写真、そして文章にも遺憾なく発揮され、芸術家ならではの独自の着眼点と、パリで民族学を学んでいた経験から、それまで考古資料としてのみ扱われていた縄文土器を、日本美術史のはじめりに位置付け、それが定説となるほどの影響力を持ちました。その他にも、1950年代に刊行し、日本の文化や美意識についての見解を提言しベストセラーとなった『今日の芸術』、『日本の伝統』は、発刊から約70年を経た現在でも色あせることなく多くの人々に愛読されています。その書籍の挿図に使用されている写真は岡本自身が自ら現地足を運び撮影したもので、彼の視線や感情だけでなく、独特の構図で画面を切り取るように撮影された写真からは、被写体が持つエネルギーがダイレクトに伝わり、彼の世界観に触れる一助として大きな役割を果たしています。

本展では、川崎市岡本太郎美術館の所蔵作品から、岡本が撮影した写真作品約100点を彼自身の言葉とともに展示いたします。岡本が初めて縄文土器について著した「四次元との対話—縄文土器論」や、日本各地を歩き、古来からの祭りや行事、さらには人々の暮らしぶりなどから原始日本の面影を見いだした『日本再発見—芸術風土記』、『沖縄文化論』などの著書に掲載された写真からは、岡本太郎が魅了された、忘れ去られつつある日本の神秘的な美しさをご覧ください。

写真作品以外にも、絵画や彫刻など彼独自の作風を堪能できる作品が約30点並ぶほか、岡本が日本各地を撮影した写真の中には祭りの様子を捉えたものが数多く存在することから、筑後地域に伝承される祭りの写真や映像、資料等を関連展示として紹介いたします。

○岡本太郎(1911-1996)

1911年神奈川県川崎市に生まれる。1929年渡欧後、翌年に渡仏。1940年までパリに在住し、前衛芸術運動に参加する。パリ大学では哲学、社会学のほか、マルセル・モースに民族学を学ぶ。1942年召集をうけ上海へ渡る。1946年復員。戦後日本で再び制作活動を再開する。1954年青山に住居兼アトリエ(現・岡本太郎記念館)を新築。1967年に日本万国博覧会のテーマ館展示プロデューサーに就任。1970年日本万国博覧会シンボルゾーン中央に《太陽の塔》《母の塔》《青春の塔》を含むテーマ館完成。1991年主要作品352点を川崎市に寄贈。これを機に美術館の建設が計画される。1996年84歳で逝去。1999年川崎市岡本太郎美術館開館。



《縄文土器(富山県出土)》
1956年3月23日撮影(東京大学人類学教室)



《なまはげ 男鹿半島にて》
1957年2月12日撮影(秋田)



《久高のる》 1959年11月24日撮影(沖縄)



《坐ることを拒否する椅子》 1963年



《二つの顔》 1957年



《稲佐・国際墓地》 1957年3月7日(長崎)



《出雲大社本殿》 1957年5月14日撮影(島根)

Events

特別講演 岡本太郎の生涯を語る

岡本太郎の生涯や人となりについてお話しを伺います。

講師 土方明司(川崎市岡本太郎美術館館長)
日時 10月28日(土) 13:30~15:00
会場 九州芸文館 教室工房3・4 定員 80名(先着順)
参加費 無料 申込不要 (※ただし本展観覧券が必要です)

ドキュメンタリー映画「岡本太郎の沖縄(完全版)」 上映+監督・葛山喜久によるトーク

「沖縄とは、私にとって一つの恋のようなものだった」と語る岡本太郎は、1959年と66年の二度にわたり沖縄取材しました。岡本太郎にとって沖縄とは何だったのか。彼の旅路を辿り、その真意を確かめに行くドキュメンタリー作品を上映します。上映後、監督・葛山喜久によるトークを行います。

日時 11月4日(土)、5日(日) 14:00~17:30 ※両日の内容は同じです。
(上映)14:10~16:17(上映時間127分) (トーク)16:30~17:30
会場 九州芸文館 教室工房3・4 定員 80名(先着順)
参加費 無料 申込不要 (※ただし本展観覧券が必要です)

トークイベント「偶然と必然。岡本太郎の写真世界」

評論家の視点から、岡本太郎が撮影した写真についてお話を伺います。

講師 楠本亜紀(写真評論家、元・川崎市岡本太郎美術館学芸員)
日時 11月19日(日) 14:00~16:00
会場 九州芸文館 教室工房3・4 定員 80名(先着順)
参加費 無料 申込不要 (※ただし本展観覧券が必要です)

ワークショップ「お面を作ろう!どんなかおがでできるかな?」

日本をはじめ、世界の生活や行事を調査・研究していた岡本太郎。1970年に大阪で開催された万国博覧会では、各国から集めた仮面とともに、自身が制作した作品《マスク》も展示されました。赤や青、様々な色や形、表情のマスク(お面)を作った岡本太郎。みなさんも自分だけのお面を作ってみませんか?

講師 高津麦(お面作家)
日時 11月12日(日)、23日(木・祝)※全2日間のプログラムのため、両日参加できる方に限ります。
①11月12日(日)10:00~16:00(※昼休憩あり) ②23日(木・祝)14:00~16:00
会場 九州芸文館 アネックス2
対象 5歳~(小学校3年生以下は保護者同伴)
定員 15名(先着順) 参加費 1500円
※当日は汚れてもよい服装でご参加ください。 ※お昼は各自ご準備ください。
申込期間 10月9日(月・祝)10:00~11月9日(金)17:00まで
(申込方法)
九州芸文館の電話(0942-52-6435)もしくはホームページ内の展覧会サイトからご応募ください。※定員になり次第締め切らせていただきます。

申し込みはこちら



福岡県のお祭りを知って見よう!—筑後七国を中心として—

福岡県に伝承される祭りや民俗芸能について、筑後七国を中心に広く解説を行うとともに、福岡県立アジア文化交流センターが制作した祭りなどの映像の上映を行います。

講師 久野隆志(福岡県文化振興課世界遺産室学芸員)
日時 11月12日(日)14:00~15:30
(講演)14:00~14:30 (上映)14:30~15:00
会場 九州芸文館 教室工房3.4 定員 80名(先着順)
参加費 無料 申込不要 (※ただし本展観覧券が必要です)

アクロス・ミュージアムコンサート

岡本太郎をイメージした曲を演奏します。

曲目 DEEP PURPLE:紫の炎(Burn)ほか
出演 福井健太(サクソ)、脇本久(ギター)、内田壮志(ベース)、垣替啓介(ドラム)、菅野大地(キーボード)
日時 11月3日(金・祝) 第1部13:30~ 第2部15:00~(各回約30分)
会場 九州芸文館 多目的広場(屋外開催のため、悪天候の場合は会場を変更いたします)
参加費 無料 申込不要 先着順
主催 (公財)アクロス福岡、九州芸文館美術展実行委員会

ギャラリートーク

学芸員が展示室にて展覧会の鑑賞ポイントをお話しします。

会場 展覧会場
日時 会期中の土日 14:00~15:00
参加費 無料 申込不要(※ただし本展観覧券が必要です)

作品は全て川崎市岡本太郎美術館蔵

日本を見つめる眼